

テーマ：「データで見る熊本市の人の動きと都市の魅力」

### 1、日本の人口は、熊本県の人口は、熊本市は、人口減少社会に本当になっている？

日本の人口は平成 26 年 1 月 1 日現在で 1 億 2722 万人となり、前年同月比で 22 万人減少しています。日本では人口減少社会に 2005 年から突入しているといわれています。

国立社会保障・人口問題研究所で平成 22 年(2010 年)の国勢調査の人口数(1 億 2806 万人)を基に発表された将来推計人口では、2030 年(平成 42 年)は 1 億 1662 万人となることが予測され、その後は出生中位(死亡中位)で、2060 年(46 年後)には 8674 万人(現在の 68 パーセント)になるという予測がされています。

それでは、熊本県の人口を見てみます。平成 25 年の熊本県推計人口調査結果は 1801 万 1495 万人となり、平成 24 年から 5706 人減少しています。国立社会保障・人口問題研究所の熊本県の将来推計人口でも、2030 年(平成 42 年)には現在より 20 万人減少するという予測があります。

熊本市の場合はどうでしょう。熊本市の場合は、熊本市は平成 26 年 1 月 1 日現在で 73 万 9628 人、前年比較では 947 人の増加が見られ、現状では人口がまだ増加の傾向を示した都市となっています。

### 2、熊本市の人口の最近の推移はどうなっているのでしょうか。

熊本市は合併を行いながら、都市の規模も人口も増加してきました。

平成 20 年の富合町、平成 22 年の城南町、植木町との合併で、平成 22 年(2010 年)の国勢調査時点で人口 73 万 4474 人の都市となり、平成 24 年に政令指定都市へ移行しました。

平成 25 年には、平成 22 年と比べて 5067 人増加しています。

また、転入・転出による人口の変化を見る社会動態に着目すると、平成 23 年から熊本市への人口の転入超過となって増加していることがわかります。

### 3、熊本市が転入超過と言っても、どこから転入してきているのか、県内からなのか、あるいは県外なのか、少し詳しくみて見ましょう。

県内から熊本市への転入超過は平成 22 年では 398 人でしたが、平成 25 年には 1087 人に増加しています。また、県外への転出超過数も平成 22 年は 1443 人(平成 22 年)でしたが、平成 25 年には 287 人と減少しています。逆に言うと県外からの転入者が増えたということになります。つまり、県内からも県外からも熊本市へ転入する人が多くなったということです。ここから、県内と県外の人口動きについて見てみます。

#### (1)県内からの人の動き

熊本県内全体では熊本市への転入超過数は 1000 人程度(平成 25 年で 1087 人)となっていますが、熊本都市圏構成市町村(14 市町村)と、都市圏を含まない熊本県内に分けてみるとどうでしょう。実は、都市圏へは 500 人ほど転出超過(平成 25 年 509 人)、逆に都市圏を含まない熊本県から 1500 人ほど(平成 25 年 1596 人)転入超過となっているのです。

※熊本都市圏とは熊本市、宇土市、宇城市、合志市、美里町、玉東町、大津町、菊陽町、西原村、御船町、嘉島町、益城町、甲佐町、山都町の 14 市町村をいいます。

熊本都市圏で転出超過数が一番大きいのは、合志市で平成 25 年で 348 人、ついで菊陽町の 227 人、3 番目は益城町の 128 人です。逆に転入超過となっているところは、宇城市の 130 人、宇土市 20 人、美里町、山都町などです。合志市や菊陽町に転出超過が多いのは光の森による発展が大きく影響しているようです。

それでは、熊本都市圏を除く県内からでは、熊本市はほとんどの市町村から転入超過です。平成 25 年では、八代市の 302 人、次に天草市 292 人、また玉名市、上天草市からの転入超過が多くなっています。県内では明らかに熊本市に人口が集まる傾向が見られるようです。

## (2) 県外から、または県外への人の動き

総務省公表の『住民基本台帳移動報告（2012 年）』のデータ（このデータは熊本市が政令市になった 2012（平成 24 年）の 4 月からの 12 月のデータです。）を見ると、熊本市からは、福岡県への転出超過数が 210 人と多くなっています。福岡県でもやはり福岡市への転出が最多です。

九州内の他県はどうかと。沖縄県を除き、宮崎県で 168 人、鹿児島県で 150 人、大分県、長崎県、佐賀県からも転入超過です。熊本市へは九州各県から多くの人が集まっているということが分かります。大都市であること、また九州の真ん中という地理的なメリットも影響しているのではないのでしょうか。

## 4、最後に一番気になる熊本市から転出超過(平成 24 年で 260 人)が多かった福岡市の人の動きはどうなっているのか、熊本市と比べてみます。

福岡市は九州各県とともに岡山県、広島県、山口県などからの転入超過が多くなっています。この傾向ははっきりしており、福岡市は九州だけでなく、九州に近い中国地方から見ても大拠点都市となっていることが分かります。男女別では、福岡市への転入は、福岡県内では女が男の 3 倍、九州各県からも女が男の 1.5 倍となっています。福岡市は女の転入超過がかなり多くなっています。

熊本市を見ると、福岡市への転出超過数は女は男の 2 倍以上となっていますが、熊本県内からの転入超過数は女が男の 2 倍程度となっています。

このことから、人が集まり発展する都市は、女性にとって魅力のある都市と言えるかも知れません。

熊本市の場合は、鹿児島県からは男が女の 2 倍以上、大分も若干男が多くなっています。熊本市への転入超過数が九州で一番多い宮崎県でも男女ほぼ同数という状態で、このあたりが福岡市との違いであり、研究テーマとなりそうです。

## 5、熊本市のもうひとつの魅力

熊本市と福岡市と比べると、まだ別の違いがあります。全体の転入超過数を年齢階層別に分けて、その転入超過数の割合を見てみると興味深いことが分かります。

それを見ると福岡市では 15 歳から 30 歳までの若い年代の人達がたくさん福岡市へ転入している傾向が強く見られます。つまり、福岡市は若者（15 歳～30 歳）に人気の都市と言えるのではないのでしょうか。

それでは、熊本市はといいますと、福岡市と違って 30 歳から 40 歳、また 55 歳から 65 歳の年代の方の転入超過数の割合が高くなっています。このことは、熊本市は、福岡市と比べ中高齢者に人気のある都市と言えます。恵まれた自然環境、地下水の豊かさ、あるいは住みやすさなど他都市にはない熊本の魅力がこんな結果にしているのではないのでしょうか。このことは、熊本市の魅力や特色を生かした今後のまちづくりの大きなヒントになると思います。